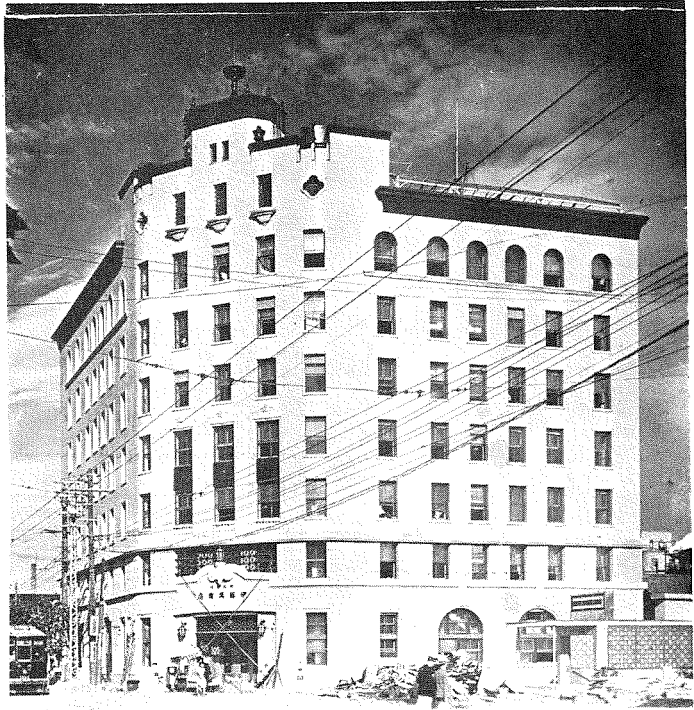


伊藤萬商店 建築工事概要

建築士
小笠原 鋤



(1) 伊藤萬ビル全景。

(2) 同上屋上展望。





伊藤萬ビルに就ては、さきに同建築が其基礎工事として採つた潜函工法に就て報じた事があつたから、まだ御記憶されてゐる事と思ふが、いよいよ此程、合理的平面計畫と立派な外觀及び充實した内容を以て竣功したので設計者たる小笠原建築事務所に乞ふて、本號に其概要を掲げる事とした同建築は個人商店としては他に例の少い程大きなものであると聞く（編者）

三階	316.58坪
四階	316.58坪
五階	316.66坪
六階	319.66坪
七階	317.60坪
中階	27.79坪
屋上	32.76坪

工 事 概 要

1、位 置

大阪市東區本町四丁目四六番地である。

2、面 積

敷地總面積 405.38坪、建坪 328.67坪で、延坪 8,136.91坪である。各階面積は次の通り。

地下二階	361.79坪
地下一階	381.05坪
一階	328.67坪
中二階	96.05坪
二階	316.72坪

3、高 さ

軒高101尺、塔頂121尺2寸、地下二階の床面の深さ28尺、基礎下端の深50尺である。

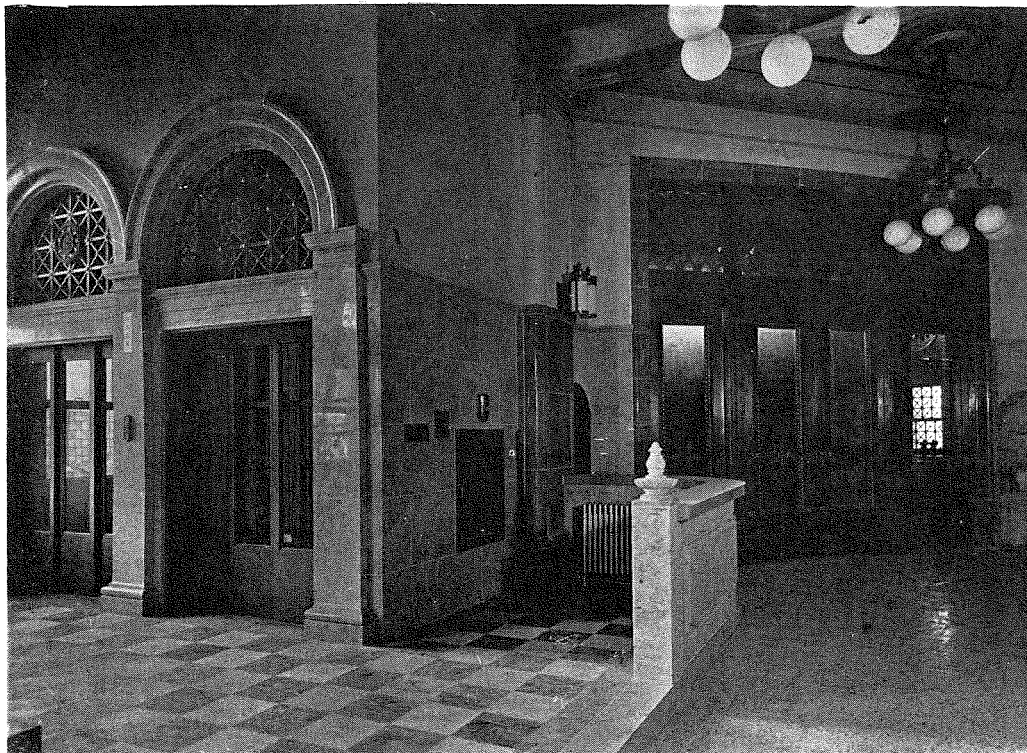
4、様式及構造

近世復興式に據る耐震防火的構造である。

5、基 礎

地質検査の結果、地下50尺のところ至十四五尺乃至20尺の砂層があるので、此處に基礎を安定せしめる事とし、我國の建築基礎工法に新紀元を劃した最初のニューマチックケーソンを使用して、地下50尺の處より順次上部に

(3) 正 面 入 口。



鐵筋コンクリート打ち固めた。尙基礎工事と同時に接地のレーニングウォールと壁を前記同様ニューマチクレーン深35尺沈下せしめた。此方法も亦我國では未だ其例を見ないところである。

6、主 體

構造は鐵骨鐵筋コンクリート造、床版は一部の外全部ビームレスの一枚スラブとし、毎

平方尺に付200呎度の安全荷重をとつた。

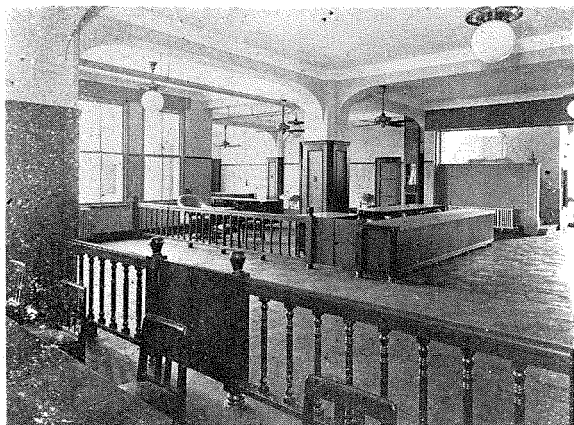
柱の間隔は大凡18尺程度に配置したが、本建築は一階荷受場の必要によつてトラックを自由に出入せしむるため27尺スパンを設けた特異の設計である。7階大陳列場及講演場に於ても特に柱を撤して大廣間とした爲、各柱は少くとも六七噸最大1,000噸の荷重を負擔せしむることとなつた。

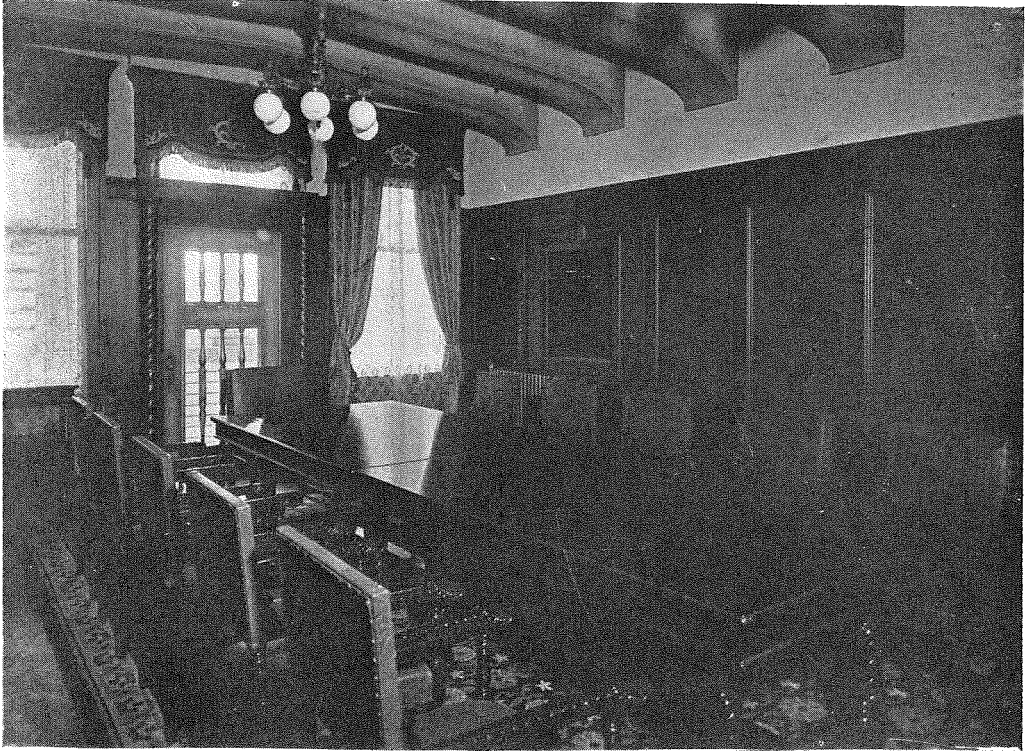
階段全部及昇降機周圍その他主要なる間仕切壁は鐵筋コンクリート造であるが簡易な仕切はアサヒスタット・ラス壁とした。

地下防水工事は敷コンクリート及びレーニングウォール面にロータスを厚三分通り塗布しその上にアスファルトフェルト5枚を張りたした外、表面防水法としてシーカ厚5分をコンクリート壁面スラブ上下面に塗つた。

(4) 一階入口及エレベーター。

(5) 事務室の一部。





屋上防水は普通のアスファルトフェルト防水層5層張を施した。

7、外部仕上

外部壁體地上一二階を茶色立山石張、上部軒下迄全部淡黄色タイル張、裝飾窓額縁は全部テラコッタを使用し、軒蛇腹は眞鍮製青味ブロンズ仕上げとした。外壁にある窓、入口には、全部防火用ローリングシャッターを取付けたが、シャッターは捲揚にのみ電動機を使用、降下は自動式とした。

尚本建築に於て最も特異とする處は、外壁窓の道路に面するもの全部を二重のスチールサツコとし、その間隙約5寸の中に、S T式疊み上げ日除けを釣り込んで、最も効果的に屋外の騒音を遮断した事で、之は未だ他に類例を見ない處である。

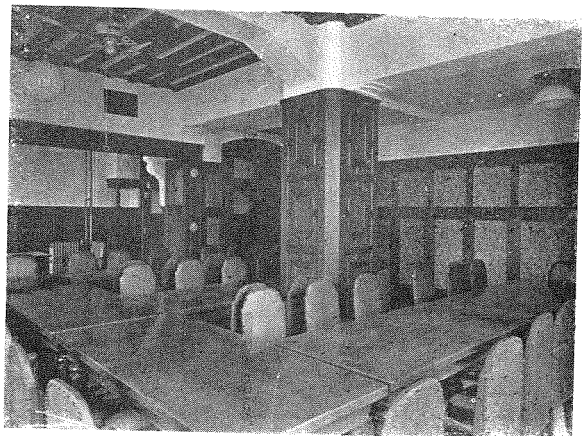
8、内部仕上

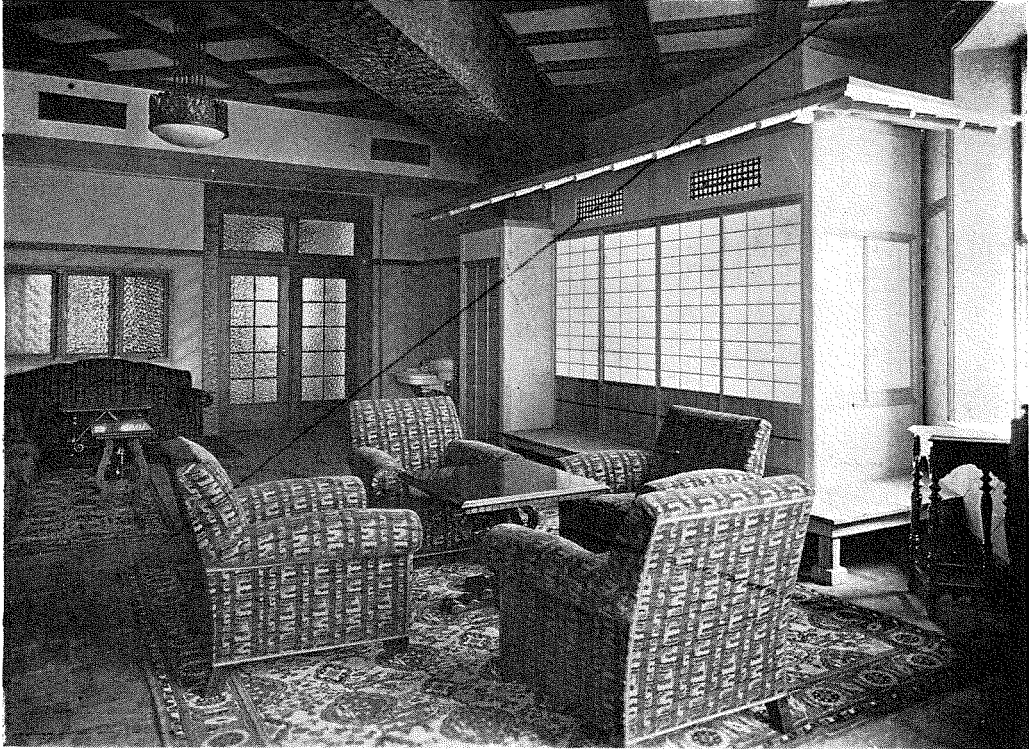
(6) 重役會議室。

(7) 會議室の一部。

各室の用途に應じて相違するけれども、大體天井は全部白色プラスター塗とし、表道路に面した一パネルは何れも防音効果を高からしむる爲富士テックスを張り、床面は大部分フローリングブロック張とした。壁面は白色プラスター仕上に各種色付をした。以下各階用途と共に内装の概要を述べる。

9、各階用途及配置





地下二階 貯藏庫、汚物處理槽、煖房機關室、變電及配電室、ポンプ室、間接煖房及換氣裝置機關室、物置、貯炭所及燒殻搬出所、塵芥燒却室等で、貯藏庫は天井壁ともコルク張り床はブロック張である。其他各室は天井壁白色プラスター、腰床タイル、建具ステイルドアである。

地一階 全店發送用荷造場、帳場、店員更

衣室等で、荷造場の天井はコルク張り、床フローリングブロック及び檜材木煉瓦。

一階 營業大事務室、荷受場、大小ホール等で、ホールは柱及壁面大理石張、正面入口周圍黄色立山石に彫刻を施す。營業室の天井は全體彫刻付象牙色仕上げ富士テックス張。

二階 應接室、大會議室、社長室、同次室重役會議室、大帳簿庫、輸出部賣場、事務室等である。腰羽目チーク材、床面寄木張天井は各種額縁を使用して富士テックス張、壁面壁紙張り、プラスチックペイント仕上げ、事務室及賣場は壁面高さ5尺通りモルタイト色仕上げ及びクリーム色水性ペンキ塗、天井白色プラスター仕上げである。

三、四、五階 陳列室、賣場、貯藏庫販賣掛事務室等で、全部實用的仕上げで裝飾はしない。貯藏庫の壁面は全體板張



- (8) 社長室の一部。
- (9) 講演場前ホール。



である。

六階 客食堂、休憩室、店員食堂、ベランダ、厨房、貯藏庫、宿直室、同浴室等に充てられ、客食堂及休憩室は和洋折衷にしチーク材の造作、大理石及タイルで裝飾したストロブを設けた。

七階 大陳列會場は天井富士テックス網代張り、壁面プラスチックペイントを以て銀色ある軽い浮模様に仕上げた。講演場はチーク材の造作。他にホール（休憩室、喫煙室）女中室、浴室、便所あり、社長休息用に供する小茶室付の日本座敷を設けた

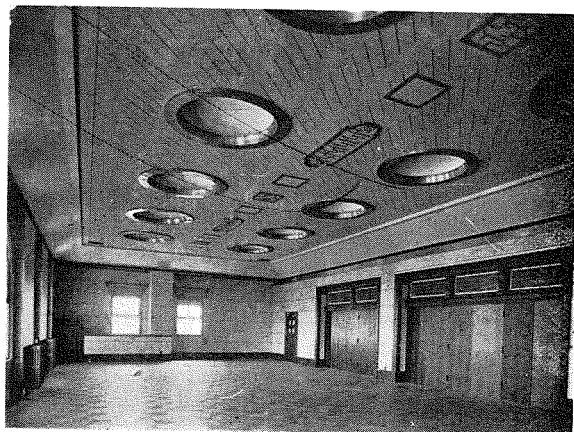
10、附帯設備
昇降機 客専用2基、客及小荷物用リフト1基、トラック用1基、人荷用3基、厨房用1基、スパイラルシュート1基、ブレインシュート3臺、自動捲上機3臺、各種傳票類風送機1臺メールシュート等。

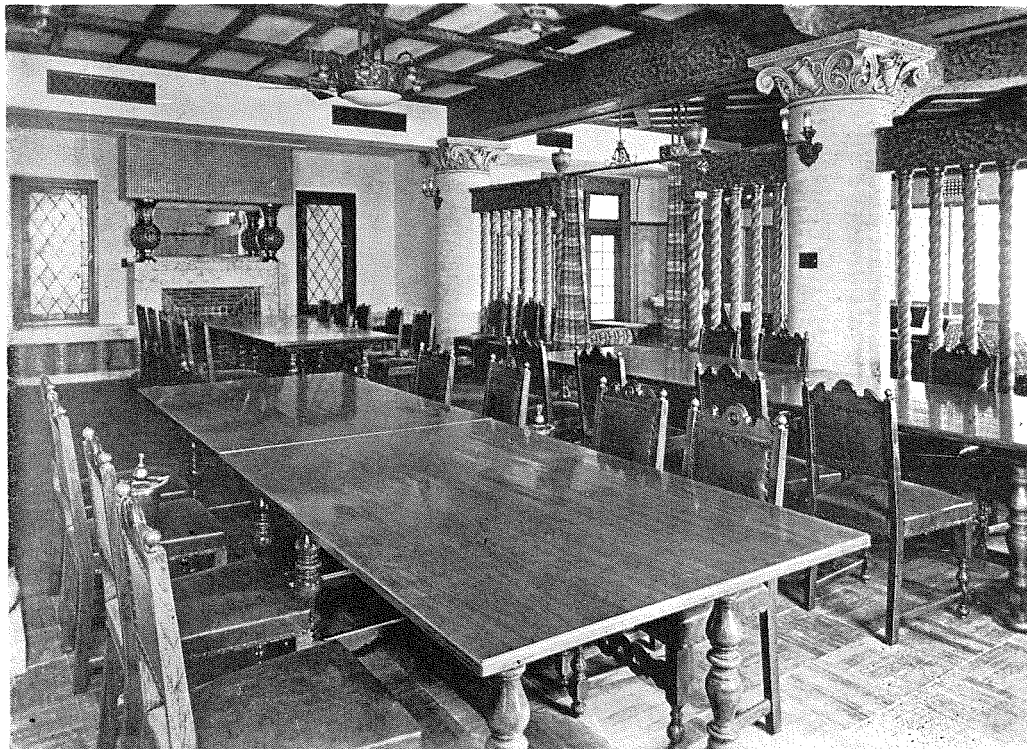
(10) 舞臺演藝場。

(11) 大陳列場。

給水及衛生設備 地下二階に一晝夜噴出量約7,000石の鑿泉を設け、換氣用の空氣洗滌及消火雜用等に供す。一般用水は市設水道より屋上タンクへ供給を受けそれより各階に配水する。便所は各階毎に設け何れも水洗式である。

供湯設備 地下二階の塵芥燒却設備により熱湯を作り之を厨房の洗滌及客便所の手洗に





供湯する。六七階の浴室は全部釜で供湯はしない。

暖房及冷房設備 暖房はスチームによる直接暖房とホットエアーによる間接暖房との兩様式である。冷房は冬季に於ける暖房装置（ホットエアーによる）を反對に利用し、地下400尺の鑿泉より噴出する地下水を冷源とし空氣洗滌機を以て清淨冷却をしたる空氣を

大型送風機で各所へ送風するもので、夏季に於て華氏約75度程度の冷房が出来る。

換氣設備 各階換氣設備は前記冷房法によつて相當完全出来るが、一階及地下二階の荷受場、客休憩喫煙室、便所等には別に大型換氣専用送風及排氣器を設備した。

電氣設備 電力は大阪市電氣局より3,300ボルトを地下線にて地下二階變電室に供給を受け、此處に次の變壓器を置く。

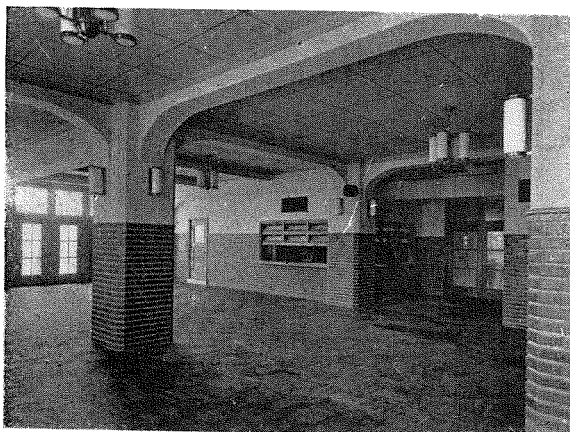
動力用 150キロ3臺

炊事其他電熱用 20キロ3臺

照明用 30キロ3臺

方式は3線式、動力線は電壓を220ボルト其他は100ボルトに低下して使用する。

防火設備 ローリングシャッター、消火栓避難階段、店内區劃シャッター等を設けた。尙ほ東南隅に突出した屋上より一階迄直通した階段を設け、之と接近し



(12) 重役及客食堂。

(13) 社員食堂。



た部分に更に窓より飛び出して使用出来る屋外鐵製避難階段を設け、又東側店員食堂より下方各階窓より隣地の空間へ降下出来る避難タラップを設備した。

火災報知器 各階の必要なる位置にM M式火災巡視報知機を設備し尙之を市内消防署へ直通せしむる装置とした。

擴聲機 電話交換室にマイクロフォンを置き交換手より店内各所へ必要なる事項を放送する設備をした。此の外ラヂオ設備電氣時計、呼鈴その他の信號設備がある。

自動發電設備 地下二階變電所の隣りにウエスチングハウス社製50キロ發電機を据え、ガソリンエンジンにより市電の停電と同時に自働切替作用を起し直ちに發電し、とりあへず人荷用エレベーターI臺と重要電燈に點火し得る設備を施し

(14) 四 階 廊 下。

(15) 一 部 外 觀。

た。

11、工期及工事關係者

設計 小笠原建築事務所 小笠原 銅
強度計算顧問 工學博士 内藤 多仲
施工 株式會社 大林組
着手 昭和六年十二月一日
竣功 昭和八年六月三十日。

— 終 —

